

幼稚園4歳児は他児の  
喧嘩やいざこざに  
いかに介入するのか

Matsubara Miki

松原 未季

奈良教育大学 教育連携講座（次世代教員養成センター）

# 幼稚園 4 歳児は他児の喧嘩やいざこざに いかに介入するのか

奈良教育大学 教育連携講座 松原 未季  
(次世代教員養成センター)

## 1. はじめに

私は、大学の学部 2 回生のフィールド調査の授業で初めて幼稚園に足を踏み入れました。幼稚園では、子どもがお友達とぶつかり葛藤する姿、躓いたり困っているお友達を助けたりする姿、よく喧嘩になるお友達とのかかわりに悩みながらもうまく付き合う方法を試行錯誤する姿などが見られました。このような姿を目の当たりして、子どもたちが作り上げる世界は、まさに「人間関係の縮図」のように感じ、子どもが子どもなりに構成する社会に魅了されました。子どもたちが形作る社会を追うことによって、「大人の間関係の原点」を見出せる可能性を感じ、幼稚園におけるフィールド調査研究に取り組み始めました。

幼稚園でフィールド調査を始めて、とりわけ私の胸を打ったのは、幼児が他児の喧嘩やいざこざに介入する姿でした。幼い子どもも、お友達が喧嘩やいざこざで困っている姿を他人事とは捉えずに、子どもなりに真摯に捉え、解決に向けて介入する姿が見られました。

幼稚園におけるいくつかの事例を紹介することで、子どもの介入の素敵な姿を伝えたいと思います。対象は、2 年保育の幼稚園の 4 歳児クラスです。4 歳児は、お友達への関心が高まり、お友達の気持ちや思いに気付いていく時期であり、介入においても、大人である私たちから見ても驚かされる姿がたくさん見られました。

今回は、①幼児が教師と共に介入する事例と、②幼児のみで介入する事例、③教師のいざこざへの援助が幼児の介入に与える影響について紹介させていただきます。個人情報保護のため、園名と調査時期は伏せ、事例に登場する園児の氏名は全て仮名とします。

## 2. 幼児が教師と共に介入する事例

幼児が、教師と共に介入する場合には、当事者の幼児への注意・助言をしたり、いざこざの状況を代弁したりします。

### 2-1. 当事者の幼児への注意・助言

#### 事例1 201X年9月20日

テイタは遊戯室を出るときに、突然ユキホの手を引っ張った。すると、ユキホはびっくりして泣き出してしまった。そのやり取りを見ていたナナは、教師を呼んだ。教師がテイタにユキホの手を引っ張った理由を尋ねると、テイタは「(ユキホと一緒に)お弁当を食べたかった」と説明した。すると、教師はテイタに手を引っ張るのではなく、言葉によって一緒に食べたいという気持ちを伝えるように注意した。教師がテイタから離れると、ナナが来て「テイタ君はいやなことされたらどう思う？」と尋ねた。テイタはうつむきながら「嫌や」と答えた。すると、ナナはテイタに「じゃあ今度からはしちゃだめだよ」と言った。テイタは、罰が悪そうな表情で黙って頷いた。

事例1では、テイタとユキホのいざこざを直接的に解決に導いたのは教師でした。しかし、教師が対応した後、ナナはテイタに注意しています。ナナは、この場面でいざこざの原因を作ったのはユキホの手を引っ張ったテイタであるということを判断した上で注意しており、当事者のユキホの立場やいざこざの状況を理解しながら葛藤場面に介入していたと言えるでしょう。

また、この事例で見られた「テイタ君はいやなことされたらどう思う？」という相手を自分に置き換える注意の仕方は、教師が幼児同士のいざこざの場面で頻繁に用いるものでした。ナナは教師の注意の仕方を模倣して葛藤に介入していた可能性があります。

## 2-2. いざこざの状況の代弁

### 事例2 201X年11月21日

カイトは、教師に近づいて小さな声でつかえながら、「木の棒で…、叩こうとした」と言った。教師が、「誰が？」と聴くと、カイトは小さな声で「テイタ君が」と言った。教師がテイタに「(カイトの)手を叩いたの？」と聴くと、テイタは罰が悪そうな表情を浮かべて、無言でうつむいていた。ユウタは、「足。小枝で。中庭で(テイタがカイトを)叩いた」と教師に伝えた。すると、教師はテイタに、「それはとっても危ないわ！足だからよかったけど、顔にあたったら危なかった。これからはA先生に言いに来て、この枝が危ないか」と言った。すると、テイタは罰が悪そうな表情で頷いた。

事例2では、カイトはテイタに叩かれたことを教師に伝えようとしたが、小さな声でつかえて話をしていました。さらに、教師がテイタにいざこざの状況を説明するように求めても、テイタは無言でした。この事例のように、幼稚園で発生する喧嘩やいざこざの場面は、教師が見ていないところでも生じ、教師がその状況を把握することが困難な場合もあります。しかし、非当事者であるユウタが当事者の二人に代わって、いざこざの時の状況を説明したために、教師はいざこざに対応することができました。このように、教師が主導していざこざを解決に向かわせる場合にも、非当事者の幼児は介入し、当事者と教師を仲介することで、教師の援助を手助けする役割を担っています。

## 3. 幼児のみで介入する事例

幼児のみで介入する場合には、当事者のうち一方の幼児に加勢したり、当事者かんの関係をとりにして仲裁したりします。

### 3-1. 加勢

加勢は2つの異なる原因によって生じていました。第一には、当事者の一方が不利な状況に陥っていることを、非当事者の幼児が認識した場合です。第二には、非当事者の幼児が当事者の片方を親しいことです。

## ①不利な状況に陥っている幼児への加勢

### 事例3 201X年10月20日

ユウタ・ジュンペイ・リカは牛乳瓶の蓋を使ってオセロを始めようとしていた。ジュンペイは、ジャンケンでオセロの順番を決めようと提案したため、ユウタとリカはジャンケンをした。その結果、ユウタが勝ち、喜んで飛び跳ねた。それに対して、リカは負けてしまい、泣きそうな表情をした。すると、ジュンペイが、ユウタが勝ったにも関わらず、「もう1回(ジャンケンを)やるよ」と言い、二人は再びジャンケンをした。しかし、再びユウタが勝ったため、ユウタは飛び跳ねて喜んだ。リカはまた負けてしまったため、再び泣きそうな表情を浮かべていた。その後、ジュンペイはまたもや「もう1回(ジャンケンをして)」と言ったため、ユウタはジュンペイに向かって不満気な顔で「なんで？もうユウ君勝ったよ」と言った。

事例3においては、リカがジャンケンに負けると、ジュンペイが二人に、二度、三度とジャンケンをするように促しました。ですが、ジャンケンをやり直しても、リカが負け続けました。リカは負けた際は二度とも泣きそうな表情を浮かべていました。ジュンペイは、この表情から、リカの悔しさを読み取り、ジャンケンをやり直させたと考えられます。この事例から、4歳児は他児の表情の変化から、その幼児の情動を汲み取りながら、いざこざに介入することが示唆されます。いざこざの場面では当事者の幼児の表情から、どちらの幼児が不利な状況に陥っているのか、非当事者の幼児が判断をしています。特に、「泣く」という行為は不利な状況に陥っていると第三者に把握されやすく、事例3のように、非当事者の幼児は泣いている方の幼児に味方しやすい、と推測されます。

## ②親しい幼児への加勢

### 事例4 201X年10月13日

クラスの園児は運動会の絵を描いていた。ノゾミは自分が描いた絵をトシコに見せていた。ノゾミの前に座っていたチカはノゾミに向かって、絵を見せる

ように頼んだ。しかし、ノゾミは即座に画用紙を裏返して「ダメ！」と言って、チカを睨みつけた。トシコもチカに向かって、「ダメ！」と言って、怖い顔で睨みつけた。

ノゾミとトシコは仲が良く、日頃から行動をともにしていることが多かったです。事例4でも、絵を見せ合っていました。しかし、ノゾミは、チカが自分の絵を見ようとする**と強く抵抗しました。**さらに、トシコもその絵はノゾミの絵であるにもかかわらず、ノゾミと同様にチカに「ダメ！」ときつく言っていました。これは、トシコがチカの行為を誤っていると判断したというよりも、親しいノゾミの肩を持ったと考えられるでしょう。事例4から、4歳児は、当事者の一方の幼児と親しい場合には、親しい方の幼児の肩を持ちうる、と言えるでしょう。

以上の事例(事例3・4)から、当事者の状態や当事者との関係性は、非当事者の幼児からの「加勢」を引き出す要因になると考えられます。

### 3-2. 仲裁

#### 事例5 201X年9月20日

工作場面で、ミクはカイトのトイレットペーパーの芯を工作に使おうとした。すると、カイトは怒ってミクから芯を無理矢理取り上げようとした。ミクは芯を両手でギュッと握りしめて抵抗したが、カイトに芯を取られてしまった。この二人のやりとりを見ていたハルカは、ミクに向かって、「ミクちゃん、カイト君に『この芯ちょっとだけ貸してちょうだい』ってちゃんと言った？」と尋ねると、ミクは否定した。ハルカがミクに「ちゃんと『ちょっとだけ貸してちょうだい』って言わなきゃダメだよ」と言うと、ミクは頷いた。次に、ハルカはカイトに「カイト君、カイト君が5歳になったらミクちゃんの言うこと聞かなきゃダメだよ」と優しく言った。そして、再びハルカはミクの方を向き、ミクの肩に手を置き、ミクをカイトのほうへ向かせた。すると、ミクはカイトに「1個だけ芯借りてもいい？」と尋ねた。カイトは「いいよ」と言って、芯を1個ミクに渡した。その後、ハルカは再びミクの肩に手を置いて、「ミクちゃん、カ

イト君にちゃんと謝って」と言った。ミクはカイトに謝ると、カイトは「いいよ」と言った。

事例5のいざこざが解決へと導かれたのは、ハルカによる仲裁があったからと言えよう。この場面で、ハルカはミクとカイトの双方に注意し、2人に公平な態度で接し、上手く仲裁しています。ハルカはまずミクにカイトの芯を勝手に取ったことを注意しました。カイトが専有していた芯をカイトの許可を得ずに使おうとしたミクの行動の誤りを、ハルカは指摘しています。また、ハルカは、ミクがカイトに芯の貸与を頼んだのかを確認していました。ハルカは、ミクに要望は言語表現すべきことを伝えています。

ハルカはその後、カイトにも注意をしました。ハルカは、カイトに対しては、芯を使いたい、というミクの要望を考慮せずに、強引に芯を取り返したカイトの行動も良くないと、捉えたようです。

このようにハルカは双方の要求を把握した上で、中立的な立場でいざこざに対応していました。ハルカの仲裁により、最終的にはミクがカイトに謝り、カイトがミクに一つ芯を貸したことから、当事者の双方が納得して葛藤が解決されています。

事例5から、介入者のハルカは、目の前で展開されている他児の状況について、当事者の行動や、状態、要求を的確に汲み取った上で、中立的な立場で仲裁しています。その結果、当事者双方の納得を得て、葛藤が解決へと至っています。

#### 4. 教師のいざこざへの援助が幼児の介入に与える影響

##### 事例6 201X年10月13日

リョウとユリカは、隣合わせで2つ空いている席が見つからず、保育室内をさまよっていた。教師はクラスの園児に「なんかね、いっぱい座るのに、困っている人、いるみたい。どうしてリョウ君とユリカちゃんは座ってないのかな?」と問いかけた。すると、ヒナタが「2人で座りたいから」と答えた。教師は、「ヒナタちゃんよく分かったね。リョウ君とユリカちゃん2人で座りたいって言ってるんだけど、お隣同士で空いてる席ないんだって。どうしたらいい

い？」とクラスの園児たちに問いかけた。

テイタは即時に自分の席から立ち上がり、リカとリョウに近づき、2人の手を握って、自分が座っていた席とその隣の席に座らせた。教師はテイタを褒めた後、ノゾミとトシコも席を探しているのに気付いて、「ノゾミちゃんとトシコちゃんも一緒に座りたいんだって」と知らせた。すると、リカが「リカちゃん、席替わってあげる」と言った。

事例6で、教師はいざこざが生じたことをクラスに伝え、非当事者の幼児に解決への協力を呼びかけています。席決めの際には、多くの幼児が親しい幼児と一緒に座るために自分たちの席を確保したい、という欲求が強く、他児の状況に目を向けることが困難になりがちになります。教師の言動は、子どもたちが自分の席を確保することに捉われるのではなく、友だち同士で座れなくて困っている仲間への援助要請の役割を果たしています。

多くの4歳児にとっては、テイタのように他児の葛藤に気付いて即座に行動をとることは困難でしょう。この場面では、テイタがリョウとユリカに席を譲ったのに続いて、リカも自らノゾミとトシコに席を譲ろうとしていました。このように、他児のいざこざに介入できる幼児が率先して何らかの行動を起こせば、それに倣って行動できる幼児も出てくるでしょう。

この事例から、教師は、4歳児が葛藤への対処に限界があることを理解し、当事者ではなく、非当事者の幼児にも葛藤に目を向けてかかわることを求めています。これが、前述の事例で示した4歳児のいざこざへの介入を引き出すことに影響したと考えられます。

○松原未季・本山方子(2013)

幼稚園4歳児の対人葛藤場面における協同的解決：非当事者の幼児による介入に着目して。保育学研究。第51巻第2号。Pp. 187-198.



## 松原 未季 (Matsubara Miki)

---

2014年 奈良女子大学 大学院 人間文化研究科 博士前期課程修了 (文学修士)

2014年4月～2017年3月 日本学術振興会特別研究員 DC1

2017年 奈良教育大学 次世代教員養成センター 特任講師に着任 (現在に至る)

2018年5月 「平成30年日本保育学会研究奨励賞論文部門」受賞

### 【研究テーマ】

大学学部時代から「幼児は他児の喧嘩やいざこざにいかに関与するのか」というテーマで研究を行ってきました。幼稚園3年間の縦断的調査より、幼児の介入がいかに関与していくのかということや、その介入の発達を支える教師の援助や、他児との出会いやかかわりについて探究しています。

【趣味】 カフェ・アフタヌーンティーセット巡り、フィギュアスケート鑑賞

【座右の銘】「努力に勝る天才なし」「有言実行」

【尊敬する人物】 浅田真央さん 大学入試で浪人していた頃、浅田選手のスケートの美しさや、諦めず前向きな姿勢に感銘を受け、自分も頑張ろうと励まされました。

小林麻央さん 闘病生活を綴られた「なりたい自分になる」というブログを読み、病に直面しながらも前向きに生きる姿勢に励まされました。このブログで描写されている、母である麻央さんの回復を純粋に信じ、支え励ます子ども達の言葉にも心を打たれました。何かに後ろ向きになったとき、このブログに書かれた麻央さんや子どもたちの言葉に触れると、とても背中を押された気持ちになります。

---

## 幼稚園4歳児は他児の喧嘩やいざこざにいかに関与するのか

---

著者 まつばら みき  
松原 未季

2019年3月31日 第1版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9135 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: [g-kenkyu@nara-edu.ac.jp](mailto:g-kenkyu@nara-edu.ac.jp)

URL: <http://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>